



本資料は、中外製薬と戦略的アライアンスを締結しているエフ・ホフマン・ラ・ロシュ社が6月2日（バーゼル発）に発表したプレスリリースの一部を和訳・編集し、参考資料として配布するものです。正式言語が英語のため、表現や内容は英文が優先されることにご留意ください。

原文は、<https://www.roche.com/media/releases/med-cor-2019-06-02.htm>をご覧ください。

2019年6月7日

各位

特定の転移性肺がんの一次治療として、テセントリクとアバスチン、化学療法の併用は肝転移を有する患者さんで良好な結果を示す

- ・ 本データは米国臨床腫瘍学会（ASCO）年次総会において6月2日（現地時間）に発表

ロシュ社は6月2日、第III相臨床試験であるIMpower150試験で事前に規定された探索的な解析結果を発表し、テセントリク[®]（アテゾリズマブ）とアバスチン[®]（ベバシズマブ）、カルボプラチン・パクリタキセル（化学療法）の併用は、アバスチンと化学療法の併用に比べ、投与開始時に肝転移を有する化学療法未治療の転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者さんの全生存期間（OS）を延長したことを報告しました（ITT解析集団におけるOS中央値：13.3カ月対9.4カ月、ハザード比：0.52、95%信頼区間：0.33～0.82）。テセントリクとアバスチン、化学療法の併用における安全性は、これまで各薬剤で認められている安全性プロファイルと一致しており、本併用療法による新たな安全性のシグナルは確認されませんでした。

【参考情報】

第III相臨床試験「IMpower150試験」において、テセントリク[®]とアバスチン[®]、カルボプラチン、パクリタキセルの併用は、アバスチンとカルボプラチン、パクリタキセルの併用に比べ進行肺癌の患者さんの生存期間の延長を示す（2018年5月18日発表プレスリリース）

https://www.chugai-pharm.co.jp/news/detail/20180518170001_21.html

抗PD-L1抗体「テセントリク[®]」切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌に対する用法・用量追加の承認を取得（2018年12月21日発表プレスリリース）

https://www.chugai-pharm.co.jp/news/detail/20181221153001_800.html

テセントリクの国内承認申請状況について

2018年4月に「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」を効能・効果として販売を開始し、同年12月に化学療法未治療の扁平上皮癌を除く切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌に対する用法・用量の追加について承認を取得しています。現在、乳がんおよび小細胞肺癌に対する適応拡大を申請しています。

上記本文中に記載された製品名は、法律により保護されています。

以上